

# ルールを守り守らせる 安全で活気ある職場の構築を！

労働災害統計委員会

平成24年度上半期（平成24年4月～平成24年9月）における会員事業場より報告された「労働災害統計票」を集約した結果について、次のとおり報告いたします。

## 【特徴】

- 労働災害統計票の提出率は53.5%で対前年同期（40.6%）比、+12.9ポイントとなり、目標値の50%以上が確保できた。統計の精度を高めるため、下期についても会員事業場におかれては、年度の提出率向上（50%以上）にご協力をお願いします。なお、提出率が増加した関係で、休業件数については、393件で対前年同期（338件）+55件となったが、損失日数は18,027日と、前年同期（21,647日）に対し16.7%減少している。また度数率0.99、強度率0.045は前年同期（各1.02、0.065）に対しそれぞれ減少している。（表1参照）更なる真の発生原因の追求と恒久的な再発防止策や改善が必要である。
- 災害発生原因の態様別災害発生件数では、不安全行為は、「無理な姿勢で動作した」「作業状態を確かめなかった」が前年同期と同様、上位1、2位であり、この2項目で全体の40.2%を占めている。不安全行為の災害は日常の作業観察、管理・監督者によるパトロールや指導等で防止できるものであり、定期的に日頃の活動に織り込む必要がある。また、作業を無理なく行うため、設備や手順等の改善とそれに基づく指導が必要である。一方、不安全な人的要素も、「習慣的（慣れ）となっていた」「安易な気持ちであった」が前年同期と同様、上位1、2位であり、この2項目で全体の36.1%を占めている。（表2参照）これについては、安全に対する感受性を高める危険予知訓練（KYT）等の継続的实施や体感訓練等の導入が必要である。異常時や教えられたこと以外の事象が生じた時には“まず止める”という原点に立ち返った活動を実施し、ルールは守りやすいものに改善し

て、守るまで徹底して教える体制づくりや、本質安全化を進めるためのリスクアセスメントを積極的に導入することが大切である。

3. 年齢別及び経験年数別災害発生件数は、経験年数別で見ると、発生率（千人率）は、10年以上が0.31と高く、ベテラン層に多く発生していることが窺える。年齢別では、同20歳未満の3.12と60歳以上の1.18、20～29歳の1.12が高い。（表3参照）各事業場毎に作業の職種、作業形態は違うものの、「20歳代」の若年層や「60歳以上」のベテラン層に対し、管理監督者として重点をおいた指導等を行い、ルール違反は無いかな、教えたとおりできているか、自分勝手にしていないか、繰り返し注意を払うとともに、コミュニケーションを活発に実施し問題解決につなげる必要がある。

以上、平成24年度は第11次労働災害防止推進計画の最終年度であり、トレンドとしては毎年変化がなく同じ傾向で推移しています。会員事業場における労働災害を減少させるために、次の対策が必要と思われます。

- 設備、原材料、作業方法等、既存、新規を問わず、リスクアセスメントを実施し、リスクを低減する。
- 部品の取り置き、設備の配置、作業の流れに無理がないか、作業手順等を定め作業改善を図る。
- 異常時・緊急時には、まず“設備を止める”“作業を止める”ことを徹底させ、ルールは守るまで何度でも何度でも徹底して教える体制をつくる。
- 若年層と60歳以上のベテラン層への再教育を実施する。
- 管理監督者と作業員間のコミュニケーションを積極的に図る。

<表1> 平成24年度上半期労働災害統計表（平成24年4月～平成24年9月）

支部名	会員事業場数	提出事業場数	提出率（%）	延労働者数（6ヶ月間）	延労働時間数	休業件数	損失日数	度数率	強度率
川崎北	224	165	73.7	295,650	63,415,839	(1) 40	728	0.63	0.011
川崎南	365	150	41.1	186,037	29,991,392	(2) 20	566	0.67	0.019
鶴見	227	114	50.2	114,342	19,832,155	(3) 19	7,880	0.96	0.397
横浜北	440	175	39.8	210,587	33,116,717	(8) 33	600	1.00	0.018
横浜南	303	261	86.1	281,917	47,810,964	(5) 52	1,087	1.09	0.023
横浜西	267	92	34.5	144,451	17,237,944	(2) 20	337	1.16	0.020
横須賀	237	118	49.8	94,070	14,508,281	(6) 35	719	2.41	0.050
藤沢	355	314	88.5	354,900	57,782,458	(3) 47	2,340	0.81	0.040
平塚	389	211	54.2	176,230	32,220,425	(3) 28	1,001	0.87	0.031
小田原	320	137	42.8	111,374	16,804,150	(0) 14	230	0.83	0.014
相模原	395	200	50.6	184,976	29,725,763	(2) 44	1,160	1.48	0.039
厚木	507	220	43.4	264,715	36,510,790	(4) 41	1,379	1.12	0.038
計	4,029	2,157	53.5	2,419,249	398,956,878	(39) 393	18,027	0.99	0.045
前年同期	4,120	1,672	40.6	2,044,949	331,147,602	(17) 338	21,647	1.02	0.065

※ カッコ内は交通事故で内数

<表2> 災害発生原因の態様別災害発生件数（平成24年4月～平成24年9月）

不安全行為	不安全な人的要素											合計	前年同期
	指図を無視した	知らなかった	他のことを考えていた	とっさの処置をした	安易な気持ちであった	習慣的（慣れ）となっていた	作業に不慣れであった	安全知識が不足していた	心身不調であった	第三者に不安な要素があった	その他の不安全要素		
合図、連絡が不徹底のまま動作した	0	1	0	3	2	1	5	3	0	1	0	16	10
安全装置を無効にした	0	3	0	0	0	2	1	1	0	0	0	7	5
機器の操作を誤った	0	2	0	3	6	2	3	(1)6	(1)1	0	0	(2)23	19
間違った機器を使った	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3	7
無理な姿勢で動作した	1	0	1	18	25	20	5	(2)9	1	0	3	(2)83	71
確実に持たなかった	0	1	3	0	2	10	1	0	0	0	0	17	20
作業状態を確かめなかった	1	0	1	10	11	25	8	(1)16	0	1	2	(1)75	52
保護具の使い方が悪かった	0	5	0	0	1	0	3	4	1	0	0	14	7
第三者に不安全行為があった	0	0	0	1	0	(1)1	0	3	0	(19)28	(1)2	(21)35	27
その他の不安全行為	1	0	2	5	(1)11	(2)21	4	6	3	0	(10)67	(13)120	120
合計	3	12	7	40	(1)58	(3)84	30	(4)49	(1)6	(19)30	(11)74	(39)393	338
前年同期	1	4	12	35	69	50	24	34	8	25	76	(17)338	

※ カッコ内は交通事故で内数（前年同期欄は合計のみ）

<表3> 年齢別及び経験年数別災害発生件数（平成24年4月～平成24年9月）

経験年数	1年未満		1年以上3年未満		3年以上10年未満		10年以上		合計	年齢別在籍人員（1ヶ月当り）	災害発生率	前年同期災害発生率
	件数	発生率	件数	発生率	件数	発生率	件数	発生率				
20歳未満	(1)9	2.16	4	0.96	0	0.00	0	0.00	(1)13	4,168	3.12	3.24
20～29歳	(4)26	0.43	(1)13	0.21	(5)26	0.43	3	0.05	(10)68	60,515	1.12	0.95
30～39歳	10	0.10	(1)18	0.18	(4)30	0.31	(4)24	0.25	(9)82	97,784	0.84	0.93
40～49歳	(1)27	0.23	(2)8	0.07	(2)27	0.23	(4)42	0.36	(9)104	117,617	0.88	0.93
50～59歳	14	0.16	(2)14	0.16	20	0.23	(4)35	0.41	(6)83	85,772	0.97	0.90
60歳以上	6	0.16	4	0.11	14	0.38	(4)19	0.52	(4)43	36,396	1.18	1.43
計	(6)92	0.23	(6)61	0.15	(11)117	0.29	(16)123	0.31	(39)393	402,252	0.98	1.00
前年同期	80	0.24	54	0.16	81	0.24	123	0.36	(17)338	337,346	1.00	

※1 カッコ内は交通事故で内数（前年同期欄は合計のみ）

※2 発生率は（発生件数／在籍人員）×1000